



POINT |
知・技

単元同士のつながりを意識した習得、活用の場面設定

国語科の学習において、限られた時間の中で身に付けさせたい力を習得する活動と、子どもが教材を通して感じたことを、主体的に広げ、深め、表現する活動のバランスをとっていくことに難しさを感じる人が多いのではないだろうか。そこで、読むこと領域で付けさせたい力を習得する場면을年間を見通して設定し、その力を生かして教材への理解を深めていくことを目指した実践を紹介する。

1 表現技法とその効果について考える

5学年の最初の文学的な教材である「いつか、大切なところ」は、主人公が5学年であり、子ども自身の経験を重ね合わせながら心情の変化を読み取ることができる。また、心情が変化する部分には多様な表現技法がちりばめられているという教材の特長を生かし、「比喩」「情景描写」「反復」「擬態語」「擬音語」などの表現技法を紹介する。その後、本文から見つけてリストアップし、表現の効果について交流し深める活動を取り入れる。

むねにすき間風が入ってきたような変な感じ

↓

むねの中で冷たい風がふいている気がした。

例えば、上記傍線部の言葉の違いから、どのような心情の変化があるか話し合う。子どもは、「すき間風」と「冷たい風」、「入ってきたような」と「ふいている」の言葉を対比させ、寂しさが募る心情が手に取るように伝わる「比喩」

表現の魅力に気づくことができるだろう。年度の初めにこのような表現技法について学ぶ活動を取り入れることで、作文など表現の場でも積極的に活用する土台を作っていく。

2 表現技法（情景描写）を捉えて読む

「大造じいさんとがん」では、登場人物の心情が最も大きく変化する山場を見つけることが主な学習活動となる。本教材には、それぞれの場面に登場人物の心情を映し出した「情景描写」が多くちりばめられている。「いつか、大切なところ」での学習経験を生かし、本単元では「情景描写」と「心情」に着目して読み進めることで、確かな手ごたえを感じながら心情の変化を読み深め、これを基にしながら、子どもが自ら山場を見つけることができると思う。

3 物語の魅力を見い出す

「雪わたり」は、リズムカルな表現とともに、人間と自然の関係について深いテーマがあることも大きな魅力である。子どもは、今までの経験を生かし、着目する技法を自ら選択し、読みを深めていく。その後の交流を通して、さらに学びを広げ深めていくことができると思う。

以上のように、年間を通してそれぞれの教材の特長を生かし、習得した知識・技能を繰り返し活用する場面を設定することにより、知識及び技能の定着が図られるだろう。

姿に近づけるための単元デザイン

音更町立駒場小学校 教諭 塚本 郁



POINT 2 態度

他教科での学びを生かし、効果的にねらいにせまるための単元デザイン

「話すこと」や「書くこと」の単元では、題材についての情報収集が必要不可欠であるが、それにかかる時間が多くなると、主として身に付けたい力にかかる時間が短くなってしまふ。そのため、国語科としての学びを充実させるためには、各教科との関連を図り、情報収集を効率的に進めていくことが有効であると考え、2つの実践を紹介する。

1 他教科の学びから「話すこと」を鍛える

総合的な学習の時間における探究学習のまとめ段階に他者に発信する活動を設定する。この活動を通して、「事実や感想、意見を区別するなど、話の構成を考えること」や「自分の考えが伝わるように資料を活用すること」などの「話すこと」領域で身に付けたい力を習得することができるだろう。

子どもが実際に調べたり経験したりしたことを教材として活用することによって、発表のために改めて情報収集をする必要がなく、スムーズに指導事項に関わる学習活動に入ることができると考える。

右上の写真は、総合的な学習の時間を通して体験的に学んだ「ふるさとの特色ある産業」について、4学年に向けて発表会をした際の様子である。

子どもは「宿泊体験」として、町内の農家や林業家を訪れている。そこで学んだ「事実」と「感想・意見」はどの子にとっても「自分事」であり明快であった。そのため、「話すこと」の指導事項は子どもの表現を助ける手立てとな

り、生きた学習になったと考える。



【発表会の様子】

2 「話すこと」から「書くこと」を鍛える

次に、4学年に向けた発表をもとにポスター作りへと発展させる。この活動では、新たな目的意識をもち、伝えたいことを絞りこむことをポイントにした。

「知っていると思っていた自分たちの町に、知らないことがたくさんあった」という経験から、「大人にも自分の町をもっと知ってもらいたい」という気持ちが芽生え、「町民に広く伝えるためにポスターを作ろう」という目標が生まれた。必然的に、「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、書き表し方を工夫すること」という書くことの指導事項となったと考える。

一度、発表形式でまとめている内容を活用することで、ダイレクトに学習活動に入ることができ、スムーズに指導事項に関わる活動に入ることができるだろう。